

提供年月日：令和7年（2025年）7月24日
所属名：滋賀県立美術館
担当者名：小松（広報担当）、小井川（学芸担当）
連絡先：077-543-2113
E-mail：museum@pref.shiga.lg.jp

企画展「おさんぽ展 空也上人から谷口ジローまで」 2025年9月20日（土）～11月16日（日）



1. 本展について

日本で「散歩」という語が初めて使われたのは、鎌倉時代から南北朝時代の禅僧、虎関師錬の漢詩文集『濟北集』だと考えられています。「梅花」「春遊」と題した漢詩で、虎関師錬は、野辺をそぞろ歩きつつ春の訪れを感じる喜びを謳っています。伝馬遠《高士探梅図》（岡山県立美術館蔵、前期展示）に月夜に梅を探して歩く様子が、浦上玉堂《幽溪散歩図》（岡山県立美術館蔵、後期展示）に山河の中を歩む様子が描かれるように、虎関師錬が謳ったそぞろ歩きは、絵画の中にも表されてきました。

明治時代以降、西洋に学んだ画家たちもまた、散歩を様々な方法でモチーフとしました。菊池契月《散策》（京都市美術館蔵、前期展示）が描くのは、新緑の森の中を2匹の犬を連れて歩く少女の姿。金島桂華の《画室の客》（京都市美術館蔵、後期展示）は、女性が犬の散歩の途中で画家を訪ねたひとときを表そうとした意欲作です。また、いつもの散歩の中でふと立ち止まったり、風景が違って見えたりする一瞬をとらえる作品も生まれました。小倉遊亀は《春日》（滋賀県立美術館蔵）で、散歩の途中に知り合いと話し込んでしまう穏やかな光景を、漫画家谷口ジローは《歩くひと》（一般財団法人パピエ蔵）で、自らが長年暮らした場所の風景を細やかに描いています。

一方、散歩に類する行為をたどると、そこそこを歩くことでは散歩と似ていながら、散歩とは異なる歩行の歴史を見出すこともできます。虎関師錬より前の時代には、空也、一遍、一向俊聖といった僧侶が、人々の救済を祈って諸国を巡り、その姿はたとえば《空也上人立像》（滋賀・荘厳寺蔵／滋賀県立琵琶湖文化館寄託）のような肖像として表されました。また西行は、武士の身分を捨てて僧侶となり諸国を行脚して、その感興を多くの和歌に残しています（《西行物語絵詞》（国／文化庁保管））。与謝蕪村《松尾芭蕉経行像》（逸翁美術館蔵）に描かれるのは、経行という、ただ歩くことに専念し一步一步をゆっくりと踏みしめ身心を整える、禅の修行の姿です。

「おさんぽ展」では、散歩や歩くことをめぐって生まれた、重要文化財2件を含む約70作品を、一部展示替えをしながらご紹介します。

2. みどころ

■散歩という身近なテーマで、時代やジャンルを超え、様々な作品を紹介します。

日常生活の一コマにある散歩。この展覧会では、時代もジャンルも様々な作品を、散歩という身近なテーマで紹介します。

作品に表された散歩の風景から、どんなところを散歩しているのだろうかという興味や、これは散歩なのだろうかという疑問も湧き起こってくるかもしれません。そうした体験は、作品の世界をより親しいものにしてくれるでしょう。

様々な作品の間をそぞろ歩くように、「アートさんぽ」をお楽しみください。



菊池契月《散歩》 1934年
京都市美術館蔵（展示期間 9/20-10/19）

■地域で大切に守り伝えられてきた、貴重な文化財も展示。

本展では、滋賀の地が守り伝えてきた文化財もご紹介します。たとえば重要文化財に指定されている《空也上人立像》は滋賀県近江八幡市の莊厳寺に、滋賀県指定有形文化財の《一向上人像》は米原市の蓮華寺に、《一遍上人像・六字名号》は長浜市の浄信寺に伝わっているものです。空也、一遍、一向は、人々に念仏を勧めて諸国を歩いた遊行の聖としてよく知られているでしょう。人々の救済のために諸国を巡り歩くというのは、本展がテーマとする散歩とは異なる歩行のあり方です。しかしそうした歩く僧侶たちの姿が、人々の信仰を集め、肖像という形で今日まで大切に伝えられてきたことを知っていただきたく、本展ではこれらも展示しました。



重要文化財《空也上人立像》 鎌倉時代
滋賀・莊厳寺蔵（滋賀県立琵琶湖文化館寄託）

■『孤独のグルメ』の漫画家 谷口ジローの珠玉の名作『歩くひと』。身近な場所への視線から生まれる穏やかな風景を原画で。

『孤独のグルメ』が幅広く親しまれる漫画家谷口ジロー。谷口は2000年代初めからフランスをはじめ海外でも高い評価を得てきました。その谷口ジローが描いた『歩くひと』は、自宅とアトリエのあった東京清瀬を舞台に、何気ない日常の中での出会いを細やかに描いています。『歩くひと』第3話「町に出かける」から、住宅や畑が混在する風景の中を歩く様子を描いたカラー原画1点、第4話「木のぼり」の全8ページ分の原画8点に加え、谷口自身が撮影し作画の参考資料としたカラー写真を展示します。



谷口ジロー《『歩くひと』第3話「町に出かける」原画》1990年
一般財団法人パピエ蔵 ©PAPIER/Jiro Taniguchi

■重要文化財を含む74作品をお楽しみください。

展覧会では、26の所蔵者・所蔵機関から出品される、48作家の74作品を、一部展示替えを行いながら紹介します。たとえばかつて切手になったことでも人気の高い金島桂華《画室の客》は、後期のみの展示となります。重要文化財2作品、滋賀県指定有形文化財1作品、大阪市指定有形文化財2作品、そして、現在活躍中のアーティストの作品を含め、散歩や歩くことをめぐって生まれた、時代やジャンルも様々な選りすぐりの作品をお楽しみください。



金島桂華《画室の客》 1954年
京都市美術館蔵（展示期間 10/21-11/16）

3. 開催概要

展覧会名(正式)：「おさんぽ展 空也上人から谷口ジローまで」

展覧会名(略記)：「おさんぽ展」

展覧会名(英語正式)：「Oh, a Walk! Art Inspired by Walking, From Kuya to Taniguchi Jiro」

展覧会名(英語略記)：「Oh, a Walk! Art Inspired by Walking」

会 期：2025年9月20日(土)～11月16日(日)

休 館 日：毎週月曜日(ただし祝日の場合には開館し、翌日火曜日休館)

開場時間：9:30～17:00(入場は16:30まで)

会 場：滋賀県立美術館 展示室3

観 覧 料：一般1,200円(1,000円)

高校生・大学生800円(600円)

小学生・中学生600円(450円)

※()内は20名以上の団体料金

※企画展のチケットで展示室1・2で同時開催している常設展も無料で観覧可

※未就学児は無料

※身体障害者手帳、精神障害者保健福祉手帳、療育手帳をお持ちの方とその介助者は無料

主 催：滋賀県立美術館、京都新聞

後 援：エフエム京都

展示作家：浅井忠、池田洛中、伊藤快彦、入江波光、鶴飼結一朗、うらあやか、浦上玉堂、浦上秋琴、瑛九、王素、小倉遊亀、金島桂華、要樹平、カミーユ・ピサロ、粥川伸二、川上澄生、川瀬巴水、菊池契月、愚溪、久保田米僊、黒田清輝、小池富久、虎関師鍊、小林古径、今和次郎、佐伯祐三、霜鳥之彦、田代正子、田中善之助、谷口ジロー、谷中安規、玉村方久斗、東郷青児、中島敦、野口謙蔵、野田英夫、(伝)馬遠、長谷川利行、(伝)馬麟、藤田龍児、前川千帆、松浦舞雪、光島貴之、モーリス・ユトリロ、八木一夫、与謝蕪村、吉田百太郎 (五十音順)

所蔵者・所蔵機関：逸翁美術館、一般財団法人パピエ、うらあやか、大阪中之島美術館、岡山県立美術館、株式会社星野画廊、株式会社渡邊木版美術画舗、京都国立近代美術館、京都市美術館、京都府立京都学・歴彩館、国(文化庁)、神奈川県立神奈川近代文学館、工学院大学学術情報センター工手の泉、小林古径記念美術館、滋賀県立美術館、荘厳寺、浄信寺、SOMPO美術館、田中産業株式会社、東京国立近代美術館、東京国立博物館、東京都現代美術館、東京富士美術館、光島貴之、MIHO MUSEUM、蓮華寺(五十音順)

担 当：小井川 理(滋賀県立美術館 主任学芸員)

4. 小さなお子さんがいる、障害があるなど、様々な理由で来館を迷っている方へ

滋賀県立美術館では、展示室でもしーんと静かにする必要はなく、おしゃべりしながら過ごしていただけます。また、目が見えない、見えづらいなどの理由でサポートや展示解説をご希望される場合や、その他、ご来館にあたっての不安をあらかじめお伝えいただいた際には、事前の情報提供や当日のサポートのご希望に、可能な範囲で対応します。

5. いつでも楽しめるワークショップコーナー(ドロップインワークショップ)

本展では、展覧会の最後に、鑑賞者がいつでも参加できるワークショップコーナー(ドロップインワークショップ)を設けます。展覧会を通して感じたことをかたちにすることができます。

6. 関連イベント

- ◆学芸員によるギャラリートーク [事前申込不要/当日先着順/要観覧料]
本展の担当学芸員がみどころを解説します。
日 時：9月27日(土)、10月11日(土)、10月25日(土) 各日とも14:00~15:00
場 所：滋賀県立美術館 展示室3
定 員：各回とも20名程度
※同日、当館ギャラリーで開催している「秩父宮記念スポーツ博物館 スポーツの造形展」のギャラリートーク(15:15~16:15)も開催します。
- ◆きままにおさんぽ会 [要事前申込/抽選]
美術館の周りのびわこ文化公園内を、寄り道しながらのんびりお散歩します。
日 時：10月4日(土) 10:00~12:00 小雨決行
場 所：びわこ文化公園(集合場所：滋賀県立美術館)
講 師：横田岳人氏(龍谷大学 先端理工学部 環境科学課程 准教授)
定 員：20名
- ◆たいけんびじゅつかん [要事前申込/抽選/要参加費(保護者の方のみ要観覧料)]
小・中学生とその保護者の方を対象に、本展の鑑賞とワークショップを組み合わせたイベントを開催します。
日 時：10月5日(日)、11月16日(日) 各日とも13:00~15:30
場 所：滋賀県立美術館 ワークショップルーム
定 員：15名
- ◆スペシャルトーク&対話鑑賞 [要事前申込/当日先着/要観覧料]
詳細はホームページ等で公表します。
日 時：10月中旬開催予定
場 所：滋賀県立美術館 展示室3
定 員：20名程度
- ◆滋賀ダイハツアリーナ×滋賀県立美術館 地域連携講座 [要事前申込/抽選/要参加費]
滋賀ダイハツアリーナから15分ほどお散歩して滋賀県立美術館へ。その後、本展の担当学芸員の解説を聞きながら展示を鑑賞します。
日 時：11月5日(水) 10:00~12:00
場 所：滋賀ダイハツアリーナ、びわこ文化公園、滋賀県立美術館
定 員：20名
- ◆ビジネスパーソン向け夜の鑑賞プログラム[要事前申込/抽選/要参加費]
「観る力」、「考える力・感じる力」、「言葉にする力」、「聴く力」を養う機会にもなる
と近年注目を集めている「対話鑑賞」をはじめとする、ビジネスパーソン向けの研修プログラムを実施します。
日 時：10月17日(金)、10月31日(金)、11月7日(金) 時間調整中
場 所：滋賀県立美術館
定 員：調整中

7. 同時期に開催する当館の展覧会(常設展)

会期：2025年9月13日(土)~11月30日(日)
会場：展示室1(小倉遊亀コーナーを含む)、展示室2
概要：滋賀県立美術館と滋賀県立琵琶湖文化館が収蔵する名品をご紹介します。

8. 次回開催予定の展覧会（企画展）

展覧会名：「笹岡由梨子のパラダイス・ダンジョン」

会 期：2026年1月17日（土）～3月22日（日）

会 場：展示室3

概 要：

笹岡由梨子は、独特の世界観を持ったビデオインスタレーションの作品で、海外でも高く評価されている現代アーティストです。現在滋賀県内にアトリエを構える笹岡の、美術館では初めてとなる個展を開催します。最初期の作品や滋賀県立美術館のコレクションに加わった作品を交えながら、初出展となる新作や大規模な近作を中心に紹介します。

9. 滋賀県立美術館の概要

- ◆1984年8月26日に滋賀県立近代美術館として開館しました。
- ◆日本画家の小倉遊亀（滋賀県大津市出身）や染織家の志村ふくみ（滋賀県近江八幡市出身）のコレクションは国内随一を誇っています。
- ◆2024年度末時点の収蔵件数は2,729件です（日本画・郷土 1,303件、現代美術 636件、アール・ブリュット 790件）。
- ◆自然豊かなびわこ文化公園内に位置し、周りには、滋賀県立図書館や滋賀県埋蔵文化財センター、茶室「夕照庵」などの文化施設とともに、日本庭園「夕照の庭」や子どもたちに大人気の遊具を備えた「わんぱく原っぱ」、自然とふれあえるビオトープなどが広がっています。
- ◆美術館北側敷地内の「彫刻の庭」には、ドナルド・ジャッド、ケネス・スネルソン、速水史朗、井上裕加里の作品4点を展示しています。また、美術館の西側（公園の敷地内）にある「彫刻の路」には、山口牧生、村岡三郎、植松奎二の作品3点を展示しています。



滋賀県立美術館外観（撮影：大竹央祐）



滋賀県立美術館エントランスロビー（撮影：大竹央祐）

10. プレス内覧会

(1) 開催日：2025年9月19日（金）

(2) 会場：滋賀県立美術館（大津市瀬田南大萱町 1740-1）

(3) タイムスケジュール【予定】

① プレス限定の内覧会

13：30～14：00 受付

14：00～14：30 本展担当学芸員 小井川理による展覧会場のご案内

14：30～15：10 説明会（木のホール）

- ・当館ディレクター 保坂健二郎のご挨拶
- ・出展作家のご挨拶（調整中）
- ・質疑応答

※13：30～14：00 は、展覧会場を自由にご取材いただくことができます。

② 招待者や関係者による内覧会

15：15～15：35 オープニングセレモニー

- ・当館ディレクター 保坂健二郎のご挨拶
- ・京都新聞社 滋賀本社 代表 石川一郎様のご挨拶
- ・出展作家のご挨拶（調整中）

15：35～17：00 内覧会（招待者らが展覧会場を自由にご観覧）

※自由にご取材いただくことができます。ただし、オープニングセレモニー中は、展覧会場に入場いただくことができませんので、あらかじめご容赦ください。

(4) 参加申込み

参加を希望される方は、別添「プレス内覧会参加返信表」に必要事項をご記入の上、2025年9月18日（木）までに、メールまたは FAX にてお知らせください。お車でお越しの場合は、びわこ文化公園の駐車場（無料）をご利用ください（機材の持ち込みなどの都合上、美術館前までお車の乗り入れが必要な場合は、別途ご相談願います）。

(5) 注意事項

天災地変等の突発的な事情により、内覧会の内容を変更させていただく場合や開催を中止する場合があります。なお、開催中止の場合は、参加申込みの際にいただいたご連絡先にお知らせします。

プレス内覧会参加返信表

申込期限:9/18 (木)

滋賀県立美術館 行き

Fax : 077-543-2170

Email : museum@pref.shiga.lg.jp

<必要事項>

1) 貴社名 :

2) ご芳名 :

※参加される方すべてのご芳名を記入してください。

3) 参加人数 :

4) TEL :

5) E-mail :

6) 通信欄 :

広報用画像等申込書

滋賀県立美術館 行き

Fax : 077-543-2170

E-mail : museum@pref.shiga.lg.jp

展覧会広報用素材として、作品画像を用意しています。ご希望の方は使用条件をお読みいただき、必要事項をご記入のうえ、メールまたは FAX にてお申し込みください。なお、読者プレゼント用の招待券の提供をご希望の場合は、本申込書の記載欄に併せてご記入ください。

媒体名 :

種別 : テレビ ラジオ 新聞 雑誌 フリーペーパー WEB 媒体 その他

発売・放送予定日 :

貴社名 :

ご担当者名 :

E-mail :

T E L :

招待券希望枚数 : 枚 (送付先住所 :)

ご希望の画像に をつけてください。

<input type="checkbox"/>	① 菊池契月《散策》1934年 京都市美術館蔵 (展示期間 9/20-10/19)
<input type="checkbox"/>	② 重要文化財《空也上人立像》鎌倉時代 滋賀・荘厳寺蔵 (滋賀県立琵琶湖文化館寄託)
<input type="checkbox"/>	③ 谷口ジロー《『歩くひと』第3話「町に出かける」原画》1990年 一般財団法人パピエ蔵 ©PAPIER/Jiro Taniguchi
<input type="checkbox"/>	④ 金島桂華《画室の客》1954年 京都市美術館蔵 (展示期間 10/21-11/16)
<input type="checkbox"/>	⑤ 東郷青児《超現実派の散歩》1929年 SOMPO 美術館蔵 ©Sompo Museum of Art, 25004
<input type="checkbox"/>	⑥ 与謝蕪村《松尾芭蕉経行像》江戸時代 逸翁美術館蔵
<input type="checkbox"/>	⑦ 浦上玉堂《幽溪散歩図》江戸時代 岡山県立美術館蔵 (展示期間 10/21-11/16)
<input type="checkbox"/>	⑧ カミーユ・ピサロ《ロンドン、ハイドパーク》1890年 東京富士美術館蔵 (展示期間 9/20-10/19)
<input type="checkbox"/>	⑨ 黒田清輝《夕の梨畑》1919年 東京国立博物館蔵
<input type="checkbox"/>	⑩ 佐伯祐三《下落合風景》1926年 大阪中之島美術館蔵
<input type="checkbox"/>	⑪ 八木一夫《歩行》1957年 京都国立近代美術館蔵
<input type="checkbox"/>	⑫ 滋賀県立美術館外観 (撮影: 大竹央祐)
<input type="checkbox"/>	⑬ 滋賀県立美術館エントランスロビー (撮影: 大竹央祐)
<input type="checkbox"/>	⑭ 展覧会チラシ

【使用条件】

※広報用画像をご使用の際は、各画像のクレジットを明記してください。

※広報用画像はすべて全図で使用してください。トリミング、縦横比の変更、文字や他のイメージを重ねるなどのご遠慮ください。

※展覧会基本情報と広報用画像の使用方法の確認のため、お手数ですが、校正原稿を当館へお送りくださいますようお願いいたします

(記事内容や報道原稿を確認する意図ではございませんので、念のため申し添えます)。

※アーカイブのため、後日、掲載誌(紙)、URL、番組収録のDVD、CDなどをお送りください。

※広報用画像は本展の広報・報道のみのご利用となります。ご利用後は必ずデータを破棄していただくようお願いいたします。

①



②



③



④



⑤



⑥



⑦



⑧



